



広島城北高等学校サッカー部OB会
 広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
 電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

広島城北高校サッカー部OB会長 19回生 吉川 英司

皆様、こんにちは。吉川です。私は、公私に渡りとても充実した広島勤務の4年間を終え、この4月から長崎の佐世保に勤務いたします。平成元年に現在の会社に入社し、3年6年サイクルで全国を転勤。今年54歳を迎えます。私は55歳が役職定年。それを過ぎると給与が減少していき色んなポジションへと出向・転籍等迎えることとなります。私の場合は、60歳には会社を退職し地元広島で「BAR」を出店する計画を持っているので割とビジョンは明確ですが、我々の年代には60歳以降の自分のあり方をまだまだ考えられず、時間ばかりが経過している先輩・同期・後輩もたくさんいます。

多分、このOB会報を読んでいる若いOBの皆様は、就職した会社で各々のポテンシャルを発揮し活躍していく事と思います。会社生活においても色々な意味で「本当にこれで良いのだろうか?」「同期より遅れている」「明らかに指示がおかしい」とか色んな「何故?」を感じ「自暴自棄」にさえる事でしょう。

こんな時に頼りになるのは、「最上段」のメンバーです。本当の意味で利害関係なく思い切り「発散」してみてください。当然、業界が違ふと内容はわからない事は当然です。ただ、業界の常識が別の業界からすると「異質な文化」として見える事が結構多く、吐き出す事により気持ちを新たに一旦ゼロクリアした上で新たに仕事に進むのも良いと思います。私自身も宮本監督(教師)には悩んだ時、色々吐露し、随分と気持ちが楽になった記憶があります。「最上段」魂の仲間をこれからも大事にしていきましょう。

今年の高校総体も残念ながら、瀬戸内高校に敗れベスト8の壁は破れませんでした。ベスト16までは見えますが、次の壁がなかなか突破できません。課題は・・・???

皆さんはどう思いますか? このインターネットが発達した現在にこんな事を言うこと自体ナンセンスと思われるかも知れませんが、私自身個人的に思うのは「気持ち」メンタルではなからうかと。この気持ちというものは、試合だけではなく普段の日常生活・練習態度・自分の思った事を仲間や伝達し議論を怖がらない。というコミュニケーション能力を踏まえた気持ちの事。時には試合前・試合中などに「気合」の入りている自分を思い切り曝け出す強さを持つ。かっこ悪い事かっこ悪く思わす徹しきれぬ「気持ち」です。

大事な大会になると対戦相手もそれなりに準備し気概を持ってきます。その相手に負けず、絶対に「勝つんだ!!」という強い気持ちで試合に出るメンバーだけでなく、全

ての部員がまとまったとき本当の「力」以上のパワーが発揮される事でしょう。ちょうど先ほど、選手権の第一次トーナメントの組み合わせが宮本監督から連絡来ました。負ける事の出来ないトーナメントです。初戦は安芸高松校。来月8月のお盆に開催される恒例の最上段合宿(私も参加します)で、スタッフより声のかかったOBにご参集いただき現役の指導をきっちりお願いしたいと思っております。「最上段グラウンド」がなかなか芝生化へ進捗しません。必ず時期が来れば芝生となり、最適な環境で生徒達がプレー出来ると思います。ので、今後も色々ご協力お願い致します。広島城北サッカーOBチームも3年目を迎えて、運営スタッフも権田(22回生)を中心に頑張ってくれています。在広のOBにおかれましては、是非時間の許す限りタイミング合えればご参加ください。では皆様、来年の1月3日の初蹴りで元氣にお会いしましょう。



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

24回生 棕梨 敬介

24回生の棕梨と申します。24回生といえ、岩井先生(やはりしつくりこないな)の同期です。岩井先生とは6年間最上段でサッカーをし、高校の時のキャプテンが岩井先生で、中学の時のキャプテンが現在、OBチームの城北クラブに参加している佐々木君です。

私は、生まれが山口だったこともあり、現在、もみじ銀行の関連会社であるYMF(山口フィナンシャルグループ)で、広島、山口、福岡エリアの地方創生にかかわる仕事をし、下関市に住んでいます。

平成元年に高校を卒業して31年、時代は令和となりました。今年49歳となり50歳も手前、世間では「おっさん」ど真ん中ですが、「おっさん」とは認めずいつまでも「お兄さん」でいたいと思う今日この頃です。

小学校にサッカー部もなく、陸上部だった私は中学1年から城北に入ってサッカーを始

めました。小学校のサッカー経験者との差は歴然としていて、ずつと補欠でしたが、それでもサッカーが好きで毎日休まず最上段で放課後ボールを蹴っていました。中学当時、顧問の井上先生の腰痛が悪化し、コーチ不在で指導者もおらず、毎日遊びのようにミニゲームを繰り返す日々だったように覚えています。ただ、夏休みや冬、春休みといった長期休暇には、当時大学生であった宮本監督や、吉川会長が毎日のようにサッカーを教えるに来てくれたのを覚えています(大学生の貴重な時間を後輩のために毎年使ってくれていたお二人には今でも感謝で頭が下がります)。当時流行したマイアミサウンドマシンのコンガという曲をカーステレオで流しながら、最上段にワインレッドのファミリアで颯爽と現れる大学中四国選抜の吉川会長は、中高生の自分たちの憧れでした。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

00回生 倉岡 和正

●●●回生の倉岡です。今回、岩井先生から本OB会報への寄稿依頼をいただき、大変光栄に存じます。高校を卒業して約20年が経ち、クラブ活動に明け暮れた高校生活を懐かしく感じながら、毎日を楽しく過ごしています。それでは、私の経歴と現状報告をさせていただきます。

広島城北サッカー部には、中学校からお世話になり、高校卒業後、関西の大学に進学しました。大学では、法律分野を専攻して学ぶとともに、体育会サッカー部に入部しました。高校時代と同じく、大学でもサッカーだけに打ち込んだ記憶があります。入学当初は、自分のサッカー経験に自信がなく、遠慮がちにプレーをしていましたが、練習環境などに慣れると少しずつ自分の持ち味をアピールできるようになり、大学2年の途中からはトップチームでプレーをすることができました。

大学卒業後は、法科大学院の課程を修了し、広島県北部にある三次市役所で働き始めました。条例等に関する法制執務や議案に関する部署に配属となつた後、教育委員会事務局へ出向し、カーブやサンフレッチェ広島、JTサンダースといったプロスポーツを観戦する市民向けのバスツアーや、市内にプロ選手を招待してのスポーツ教室を企画・実施するとともに、広島県高等学校駅伝競走大会の地元実行委員会の事務局などを担当しました。スポーツを通して、多くの市内外の方々とお会いし、素晴らしい人脈を築くことができました。

改善点を練習の振り返りとして書いていたのを思い出します。今になって考えると、サッカーセンスもなく、必死になってみんなに追いつこうと自分なりにサッカーに没頭していたんだと思います。自分のプレーを振り返って同じミスをしなないように絶えず自己改善を図ろうとした取組姿勢や、寒い冬も暑い夏も必死になってチームメイトと最上段でサッカーに没頭した熱い心は、社会人になっても私の根底に根付いています。そして、なにより将来にわたり後輩にいいチーム(組織)を引き継ぐという意識は、社会に出て組織で働くようになってからも絶えず持つようにしています。

そんな社会人としての土台を作ってくれた最上段には、今も感謝しています。広島城北サッカー部の永遠のサポーターでありたいと思っています。最後に私は後輩に上から目標で「がんばれ!」というメッセージはあまり好きではありません。私も社会人の「おっさん」いや、「お兄さん」として最上段魂で頑張るので、現役もOBもそれぞれの持ち場で、ともに頑張ります!

その後、市長の特命事項を所管事務とする政策部政策課に配属となり、地方への人口還流や東京一極集中の是正などを目的とした地方創生法制定に伴って義務付けられていた、三次市の人口推移および人口展望を記した「人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定業務などを行い、政策部政策課から同部特命担当へと組織改編したのちも、市長の特命事項に関する業務を担当し、主に、オリンピック・パラリンピック事前合宿の誘致や妖怪博物館の建設、旧三江線廃線に伴う鉄道資産の利活用の検討などに携わりました。

現在は、三次市役所から広島県へ派遣され、広島県東京事務所(東京都)に勤務しています。はじめての東京生活、そして異なった組織での職務ということもあり、色々苦労も多い毎日ですが、生活および職場環境に慣れることだけを第一優先に考えて過ごしています。東京事務所では、ひろしまブランドショップTAUに関する業務や広島県産品の販路開拓支援、首都圏広報、三次市の特命事項に関する業務に取り組んでいます。上京して3か月しか経っていませんが、広島出身者には同窓や同郷という意識が特に強いこと、そこから生まれる人との関わり的重要性を強く感じています。同窓や同郷というだけで、多くの方から優しく温かい言葉をかけていただき、東京生活を不安なく過ごすことができ、他人を思いやるという人間の基本に気づかされる毎日です。これからも、広島県のため、三次市のため、広島城北サッカー部のために、その置かれた場所や環境で、自分ができることを一杯取組むとともに、人が安心して暮らせるお手伝いをしたいと考えています。



39回生 佐柄 正憲

広島城北学園サッカー部OBの皆様、サッカー部に携わる皆様、はじめまして。39回生の佐柄正憲と申します。広島城北高校を卒業し約15年がとうとうと経ちました。このたび、会報誌の執筆のお話をいただき、私の近況報告から、サッカーとの向き合い方、広島城北学園サッカー部との関わりなど、執筆させて頂ければと思います。

高校卒業、大学生生活(サッカーとは無縁の4年間)2004年に広島城北高校を卒業し、立命館大学に入学しました。一般的に立命館大学は京都のイメージがあるかもしれませんが、私は経済学部のため、滋賀県にある「びわこ・くさつキャンパス」で4年間学びました。キャンパスは滋賀県の南西部に位置し、京都駅まで車で20分程度と交通アクセスは大変良かったです。私が在学した当時は、校舎・建物も大変綺麗で、自然豊かなキャンパスだったことを覚えています。大学生生活では、よく友人たちと遊びに行き、アルバイトに励んでいたため、今では考えることができませんが、サッカーは無縁の生活をしていました。サッカーはサークル活動を週1回する程度で、友人たちと楽しくボールを蹴っていました。

大学4年生(卒業を控え、向き合い方の変化) 大学生生活も卒業を控え、就職活動をおこなって行く中で、自分自身の人生設計、サッカーとの向き合い方について、明確な想いが生まれ、それは、「自分はひとつの場所に腰を据えて生活し、じっくり仕事をすめていきたい。」「小学校の時からサッカーが好きだった。社会人になって、少しでもサッカーに携わりたい。下手くそでも良いから、プレーヤーとして息の長い選手になりたい。」賛否両論、様々な意見はあるとは思いますが、これは自分が考えてひねりだした想いでした。いろいろな想いも重なり、生まれ育った広島での就職を第一に考え、無事に広島ガスに就職することが出来ました。就職後、会社の先輩方から誘われ、広島フジタサッカークラブに所属することになりました。ここでの、多くの方々の出会いが、私のサッカーに対する向き合い方が変化しました。

社会人(サッカーが楽しくてしょうがない) 前述したとおり、大学では体育会サッカー部に所属しておらず、週1回のサークル活動だったため、クラブではプレー面、メンタル面でついていくのがやっとでした。特にメンタル面では、ピッチに立つ上で、最低限の体調管理、試合後のケアまで、考え方をすべてが未熟だったと痛感しました。幾分遅いですが、ここからはじめてサッカーと真剣に向き合うようになり、あわせてサッカーが楽しくなりました。平日は仕事に練習、休日は試合な

どサッカー中心の生活に変わっていきました。

聖地 最上段グラウンド

現在、私は、自分の試合がない休日を中心に、中学校サッカー部を主に携わっています。私の選手たちと向き合う際の想いは、「直近の高校サッカーで活躍し、その先の長い人生でも、サッカーと向き合い、そのきつかけが中学サッカーであってほしい」この想いで携わっています。私は、学生時代にサッカーに対してネガティブな感情になってしまい、頑張ること、素直にサッカーと向き合うことが出来ませんでした。自分の役割は、先生方と選手たちとの間に入り、少しでも勝利に向かって、全力でサポートすることだと考えています。今では、自分が携わった、当時、中学生だった後輩たちが、社会人になり、スタッフとして最上段に帰ってきています。本場に最上段グラウンドは語りつくせないほどの人と人とのドラマがあり、自分にとって、かけがえない場所、聖地になりました。

最後に、吉川OB会長を中心に、サッカー部OBたちで結成された「広島城北クラブ」が広島シティリーグに参戦して、現役時代きながらの試合をおこなっています。18歳から50歳までのさまざまな世代が集まり、勝利を目指して頑張っています。私も、100年後も続く偉大なるクラブの一員として、毎試合、楽しみにしながら、参加させて頂いています。末筆ながら、広島城北学園サッカー部に携わる皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



49回生 平岡 薪士

初めまして、49回生の平岡 薪士(ひらおか まさし)と申します。今回OB日誌を執筆させて頂く機会を下さりありがとうございます。私は、現在近畿大学大学院に在学し、建築の分野で設計を専攻しています。丁度就職活動が終わり無事来年の春から社会人となります。

今回は、城北サッカー部で学んだことと後輩に少しでも響いていただけたらいいなと思うことについて書かせて頂くと思います。まず、私についてなのですが、熱を表面に出さないタイプでよく気分屋と高校の時は言われていました。ですが、練習や試合は真面目にやるほうだったので、「文化系ボランチ」という体育会系なのに疑問が浮かぶネーミングを宮本先生と岩井先生に付けられた、付けて頂いたのですが、今となってはいい表現だなと思っています。(笑) 私のことはこのくらいで、これまでの活動を通して、城北サッカー部から始まり今でも自分の大切にしている事が大きく3つあります。

それは、「意見を伝える力」「吸収する力」「みんなで作り上げる力」です。

『意見を伝える力』『吸収する力』

現役の皆様は、環境が変化する中でこれから様々な壁にぶち当たるとも思います。また、一人一人今の位置によって考えることも違うと思います。私の現役時代は同期や後輩がそれぞれ思っていることを言っていたのでまとまりがあつたかと言われればわかりませんがその意思伝達のおかげで目指す形というものが明確だったと今になって思います。それぞれが思っていることや感じていることを伝えて後悔することもあるかもしれませんが、これがこれまでを通して学ぶことが多いです。プレーを見て真似るという事も人の意見を聞き入れるという事も社会に出て大切ですし、チームとして成長するには必要不可欠なことだと思います。

『みんなで作り上げる力』

これに関しては、本場に城北サッカー部でよかったなと思います。チームというものの大切さをしっかりと学べた部活動でした。高校サッカーは、笑ったり、泣いたり、喧嘩したり、本場に熱中できる最高のもの。なので、現役の皆様はチームとして自分の役割を見つけそれぞれ思ったことを実践してみてください。と、長々と書かせて頂いたのですが結論、城北サッカー部で良かったです。俺たち最高!!! 現役の皆様は、悔いの残らないように全力でサッカーを楽しんで下さい! これからもこのクラブのファンとして応援していきます。 それでは、また最上段で!



近況報告

みなさんこんにちは! 24回生の岩井竜彦です。

このOB会報誌も、今回でとうとう第20号となりました。

平成12年に記念すべき第1号を発行し、そこから毎年欠かさずに第20号まで到達できたこと、感慨深い気持ちと感謝の想いでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今回の会報誌にも、吉川会長と他4人のOBのみなさんに寄稿していただきました。中でも24回生の椋梨君は私の同級生で、満を持して(笑)の執筆依頼を「私でよければ喜んで」と、二つ返事で引き受けてくれました。送ってくれた文章を読ませてもらって、私にとっても懐かしい様々な場面(ここには書けないことも)を次々に思い出し、胸がいっぱいになったのはいうまでもありません。その勢いで、今年の文化祭の同窓生講演会に出演依頼をしたところ、これも快く引き受けてくれましたので、OBのみなさんも9月22日・23日(講演会は22日土曜日)の文化祭に、ぜひ足をお運びください。

その前に、今年も8月13~16日の日程で、最上段にて合宿を行います。スタッフとして参加してもらうOBには連絡が行っていると思いますが、お時間があればOBのみなさん、ぜひ最上段グラウンドに顔を出してみてください。正月の初蹴りとはまた違った雰囲気の現役チームを見てもらいたいのはもちろんですが、気軽に最上段の空気を吸いに帰ってきてくれればいいなとも思っています。

今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

広島城北中・高等学校サッカー部 岩井竜彦(24回生)



QPONのひとり言

悩み迷う

瞬間瞬間、全力でやってきたつもりだが

どうなんだろう?

少しずつ積み上げをしてきたつもりだが

どうなんだろう?と悩む

これから進む道もわかったようで、わかってなく

どする?と迷う

まっいいかと 前向いて進む

そんな日々を送っている



宮本 誠 (19回生)